

## 会 議 結 果

会議名	平成28年度 第1回西尾市地域公共交通活性化協議会
日時	平成28年6月16日(木) 午後2時15分～午後4時35分
場所	西尾市役所 1階 多目的室
出席者	西尾市地域公共交通活性化協議会委員20名 事務局3名 オブザーバー1名(一色地区公共交通協議会 鈴木会長) (欠席:高津道子氏、古田寛氏、新美惣英氏、岡田文雄氏、稲吉昌志氏)
傍聴者	4名
議 事	下記のとおり
<p><b>1 開会</b></p> <p>○渡邊委員(中部運輸局愛知運輸支局 代理)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料「活発で良い議論ができる会議のために。」について説明。</li> </ul> <p><b>2 議題</b></p> <p><b>(1) 西尾市地域公共交通活性化協議会規約の改正について(協議事項)</b></p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋鉄道株式会社の委員への追加について、資料1により説明。</li> </ul> <p>◎議題(1)について全会一致で承認。</p> <p><b>(2) 平成27年度収支決算について(協議事項)</b></p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2により説明。</li> </ul> <p>○石原委員(西尾市シルバー人材センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・監査委員より監査結果の報告。</li> </ul> <p>◎議題(2)について全会一致で承認。</p> <p><b>(3) 平成28年度収支予算について(協議事項)</b></p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料3、参考資料1により説明。</li> </ul> <p>◎議題(3)について全会一致で承認。</p> <p><b>(4) 市内公共交通の平成27年度実績について(報告事項)</b></p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料4、参考資料2により説明。</li> </ul> <p>○中村委員(西尾市障害者福祉団体連合会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名鉄西尾・蒲郡線の県からの補助金について、以前はもう少し多い金額をもらっていたと思うが、いつから下げられたのか。</li> </ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は1/3の補助率であったが、段階的に補助率が引き下げられており、昨年度は補助率1/6で2,500万円の補助金を頂いている。</li> </ul>	

#### **(5) 平成29年度生活交通確保維持改善計画について（協議事項）**

○事務局

- ・資料5、参考資料3により説明。

○副会長

- ・平成27年度の二次評価の中で「住民と十分議論のうえPDC Aサイクルを実施されることを希望します」とあるが、何か具体的な対応を考えているか。

○事務局

- ・全体としては、今年度中に運行維持評価基準を設定する。また、地区公共交通協議会の設立されている地区においては、地区との連携によりPDC Aサイクルを実施していく。

○副会長

- ・PDC Aサイクルというわかりづらいが、どれだけ使っているのか、必要なかどうか、どうしたら良くなるのか、良くするために何をしたらいいのかということ話し合う機会をどう設けるのが重要で、地区公共交通協議会がない地区をどうするのか等についても具体的に詰めていく必要がある。

◎議題（5）について全会一致で承認。

#### **(6) 西尾市地域公共交通計画の改訂について（協議事項）**

○事務局

- ・資料6、参考資料4、参考資料5により説明。

◎議題（6）について全会一致で承認。

#### **(7) 一色地区での新規バス路線の運行について（協議事項）**

○事務局

- ・一色地区公共交通協議会において市への提案内容がまとまったため、会長から報告いただく。

○一色地区公共交通協議会 鈴木会長

- ・一色地区公共交通協議会からの提案内容について、資料7により説明。

○事務局

- ・本日協議事項としてお諮りする内容としては、熱心にご協議いただいた一色地区において新たにバス路線を運行するという大枠の方向性をご承認いただきたい。ルート等の運行条件の決定を本日用う訳ではないため、資料7をご確認いただき、何かあればご意見等頂きたい。

○副会長

- ・バス路線運行の方向性を諮るということだが、この場で判断できるのかというのが正直なところである。網形成計画の58ページに運行維持のための評価基準例があり、一色地区の路線にも当てはまると思うが記載がない。今後この会で決めていくということだが、基準が未定のまま進めていくのは無責任ではないか。頑張っていこうというのは言えるが、具体的な評価方法がないと責任は取れないのではないか。
- ・例えば、運賃や運行時間が出ているため、どれくらい経費がかかるか概算は可能である。収支率の基準があれば、どのくらい乗ればいいのかも概算で出せると思うが、それを地域がクリアできるのか。できないとすればどれくらいがんばって啓発しなければいけないのか。体制についても、地区の色々な組織や企業や団体があると思うが、地区協議会は町内会で組織されておりそれだけでは不足している。特にお金が絡むため、もう少し組織として整理する必要がある。
- ・今回は新路線を作る話だが、既存の一色線やいこまいかーをどうしていくか、ふれんどバスも含めての結節点をどうするかが議論されないと、この路線が妥当かどうかわからないが、地図を見ても結節点がどこか不明である。今のままでは、そもそもふれんどバスと一色線がばらば

らで、もう1つばらばらなものを入れてどうになってしまうのか心配である。

- ・一色地区の中で色々な路線をどのように整合を取り、その中で足りないところをこの路線がカバーするという説明をする必要がある。そういう意味で、網形成計画にも書いてあるが、一色地区でのターミナル整備は重要で、それができていない段階で走らせてもやむを得ないとは思いますが、完成形としてはそういった理想がきちんとないといけない。そのあたりを資料7に書いていってほしい。今の資料では、こう走ったらいいなという希望が書いてあるが、本当にやれるという運行計画案には見えない。
- ・ここへ行くのにこれくらい乗りそう、これくらい乗らないと収支率がクリアできないので皆で乗ろう、そのためにはこういうところに呼びかけて一緒にやろうということを議論して深めていただき、これならいけるなという確信が持てるよう詰めていっていただきたい。

○一色地区公共交通協議会 鈴木会長

- ・結節点については、②の大宝橋のところではふれんどバスと一色線が交わっている。
- ・六万石くるりんバスの試乗会も行いながら、現地を何度も試走し、運行時間や道路幅等を勘案して現在の案として投げかけさせていただいた。

○事務局

- ・結節点については、参考資料1の3に記載したとおり、一色地区の新規路線と同時に、ふれんどバスと一色線の結節点をいくつかの候補から決定し路線を結集する予定である。今後法定協議会で決定していくが、併せて地区協議会の意見も取り入れながら進めていく。
- ・詰まっていないという話だが、今回の資料はあくまで地区からの提案という内容である。今後この提案を受けて、事業者や運輸局等と詰めていってよろしいかということを確認したい。次回以降、運行までのスケジュール、運行条件、費用等を明確に示し決定していきたい。

○副会長

- ・委員へ配布された資料ではないが、幹線系統を扱う愛知県バス対策協議会の資料が手元にある。一色線の利用促進策として、利用者ニーズの把握に努めて運行計画を改善し利用者利便を図る、広報バスマップの配布と書かれているが、これでできるわけがなく、こういうレベルでは進まない。一色地区では、この他にもいこまいかー、ふれんどバス、今回の新規路線がある。それぞれをどう利用促進するか、さらに組み合わせ全体でどのようにやらなきゃいけないかしっかり考えてほしい。そうすれば新規路線がどのように使われるかのイメージが膨らみ、利用促進策も具体的に出てくる。
- ・この路線によって今までできなかった何ができるようになるのかを明らかにしてほしい。使い方が想像できないのにもかかわらず乗ろうでは苦痛になってしまう。この人達はこういうところに行きたい、このルートならこういう使い方ができるという想像を膨らましてほしい。これを早い段階でやらないと、バスが走っていても何に使えばいいかわからなくなってしまふ。既存路線との役割分担も含めて、一色全体の公共交通網をきちんと考えてやってほしい。

◎協議事項（7）について、方向性を確認し、今後詳細を詰めていくこととした。

### 3 意見交換

○加藤委員（名鉄バス東部(株) 代理）

- ・一色地区の新規路線について何うが、この路線は六万石くるりんバスの一路線となるのか、それとも新たなバス路線という位置付けか。碧南市と共同で運行協議会を立ち上げてふれんどバスを運行しており、一部並走区間もあるため碧南市とも調整していただきたい。

○事務局

- ・路線の位置付けとしては、六万石くるりんバスではなく一色地区の新規の路線となる。ルートについては、ふれんどバス及び一色線の運行事業者へは事前にお諮りしたが、既存の公共交通をなくしてはいけないということで、重ならないことを第一にルートを検討した。他にバスが

通れる道がないところもあり、一部重複するが今後調整していきたい。地区の想いとしては、これまで交通が不便であった東部、西部の方が中心部まで来られてふれんどバス、一色線に乗っていただけるように考えていただいた。

○中村委員（西尾市障害者福祉団体連合会）

- ・路線を増やすということは一色地区にとってはいいことだが、運行時間の関係もあるため、鉄道等との接続点を拠点としたらどうか。私達の地域は交通空白地で、障害者やお年寄りは買い物に行けずバスにも乗れない。いこまいかーがあるが、お年寄りの方々がタクシーを予約し公共交通機関で乗り換えるとなると手間とお金がかかるし難しい。現在町内の老人会役員有志が、月に2回お年寄りを買い物と病院に連れて行っており、とても助かっている。どこまでいっても空白地域は出てくるし、全てを網羅することはできないが、デマンドはこういう利用方法があるというようなわかりやすい周知してほしい。六万石くるりんバスも極力路線バスや駅に接続できるといい。三河線廃止以降、福地駅では一色の方の利用が多く駐車場も不足しており、電車の時間には車が溢れている。そういった点からも福地駅を拠点とした結節を考えてほしい。

○会長

- ・テレビで埼玉の路線バスの事例が取り上げられていた。路線バスが廃止され、地域の皆様が立ち上がった。小さいバスで拠点までお客さんを集め、拠点からは大きなバスで運行したところ、お客さんが増え経営が立ち直った。一色地区でも同じように拠点へ人を集めてくるようなバスになるといいと思う。

○副会長

- ・おそらくときがわ町の話だと思う。最寄り駅が町外に2つあり、アンケートをとるとどちらにも需用がある。集落が4つあり、それぞれから2つの駅へ向かう路線であったため、本数の少ない路線がいくつも入り乱れていた。まず中心の役場近くにバスターミナルを設け、そこに2つの駅からのバスを集めた。同時に4つの集落へ行くハイエースが集まり、乗り換えてそれぞれの場所に行ける。その結果路線の効率化となり、経費は少なく本数を増やすことができ、利用も1.5倍くらいに増えた。
- ・一色地区でも幹線系統が交差している付近の施設を選んで新規路線やいこまいかーを集中させれば、それぞれ本数は少ないが、拠点からは色々なところへ行けるようになり選択肢が増える。
- ・先ほどの福地駅の件で、一色線は西尾まで行かずに福地駅で止めておけばもっと本数は増やせるが、そうすると西尾での買い物等に使うために1区間電車を使わなければならない、利用が減るかもしれない。そうであれば、バス一本で西尾まで行けたほうが使ってもらえるかもしれない。そういうことも考える必要がある。
- ・憩の農園での乗り換えもきちんとダイヤがつながっていれば色々なところへ行けるが、乗り換えて行きたいところがあるかは検証しなければいけない。ニーズを考えなければ、ただ接続していても意味が無い。
- ・今の西尾市は階層がめちゃくちゃで愛知県でも有数の混乱した交通体系である。色々な路線があって、運賃や乗り場もばらばら。それを何とかするため、網形成計画44、45ページで階層分けをしている。一色の新規路線は準幹線という位置付けで六万石くるりんバスと同等だが、中心部と比べると一色は利用が少なく、車両は小さくてもいいかもしれない。

○中村委員（西尾市障害者福祉団体連合会）

- ・先ほどの話で町内の有志が買い物等の送迎をしているが、ガソリン代の負担等を行政で補助できないか。

○事務局

- ・1つのアイデアだと思う。一色地区の路線は地域自ら考えていただいたが、細かいところまで市が全部やってくれるわけではないため、地区の自主性を尊重している。補助金に限らず、各地域のあり方を模索していきたい。

#### ○副会長

- ・近年の流行として買い物のための相乗りでのタクシー利用がある。町内会が困っている人をリストアップしタクシーを呼ぶ。誰が使うかをとりまとめ、料金支払いは利用者各自だが、町内会から協賛等で補助、あるいは市で補助を行ったりしている。現在全国的にタクシー事業が危機的な状況であるが、白ナンバーだと事故の際の責任等の問題もあるため、やはりタクシー会社を活用した相乗りや市が補助を行う事例が多い。いこまいかーもそれぞれが予約すると乗合にならず面倒だが、困っているお年寄りがいるのであれば、何曜日と決めておいて皆で呼ぶかたちを決めておけばわかりやすくなる。それぞれがどう困っているかのニーズを集約し、事業者等も出席しているこの会議で何ができるかを問いかけ実現していくことがPDCAである。

#### ○鋤柄委員（名鉄東部交通㈱ 代理）

- ・網形成計画19ページでタクシーの記載をしていただいた。高齢者や障害者の移動支援を行っており、高齢者が免許証を自主返納すればタクシーは1割引きとなる。そういったことも含めて、外出の支援策を市と協議していきたい。24ページでいこまいかーの記載があるが、存在を知らない方が多いため、事業者としても周知し、市でも使い方の提案をするようなかたちで周知していただきたい。

#### ○藤井委員（一色西部小学校区代表町内会長）

- ・一色地区で新規路線を検討しているが、まずはとにかく運行を開始し、支障があれば改善していけばいいと考えていた。しかし、利用者がいなければ路線が続かないため、ニーズ等をきちんと考えなければいけないと先ほどの話を聞き考えを改めた。

#### ○一色地区公共交通協議会 鈴木会長

- ・この案を決定するまでに月1回集まり多くの意見が出た。事前に検証すべきというのは重々わかっているが、費用の数字までは地区では出せない。もっと細かいルートをとる意見もあったが、六万石くるりんバスと同様のものを考え、時間や車両の制約の中でこれが総意となった。
- ・利用促進は地域の各組織と連携すべきとあったが、地区のコミュニティは崩壊していつている。婦人会もなくなり子ども会や老人会も厳しい。その中でどう地域をまとめるかとなり、現在のところは町内会で進めている。

#### ○副会長

- ・コミュニティの衰退は全国的に見られるが、一方バスを走らせるのであれば、コミュニティがなければ利用を増やしていけない。バスの利用促進から始まりコミュニティが再生することもある。路線に乗る目的として、イベントやお祭りができたり地域が盛り上がるケースもある。地域が一体にならなければできないし、皆で取り組む中で地域が一体化してくる。資料7もそのきっかけになるので、ただの紙切れに終わらせないために資金計画などが必要となり、それが得意な商工会などを巻き込むべきである。一宮市でも地域をどう盛り上げるかということと公共交通を一体で考えていて、他の地区と比べるとバスに乗り切れないうらい利用が多く、新しい車両を入れなくてはならなくなった。そうなれば予算もつけやすいため、そういう流れを是非作ってほしい。

#### 4 その他

- 西尾市観光協会よりチラシ配布イベント（佐久島クルーズ）の案内。

#### 5 閉会

以上